



はじめに

2014年の札幌国際芸術祭をきっかけに誕生したSIAFラボは、2015年に活動を開始して3年が経過しました。

SIAFラボの活動は、札幌とは何か、という根本的な問いに対して答えを探る活動から、実践的なプログラムを通じて体験の機会を生み出し、芸術祭への関心を高める為にスタートしました。

SIAFラボ独自の活動を通じて、これからの理念や目標を共有する中で、創造都市の実現や、札幌の芸術文化振興そのものに寄与していくことが本来の活動のあり方ではないかという議論が行われ、SIAFラボが行う活動の意義が深まっていったのではないかと考えています。

特に、昨年は芸術祭の開催年でもあり、最も活動的な年であったことは言うまでもありませんが、SIAFラボが独自に積み上げてきたプロジェクトの成果や今後の可能性をさまざまなプログラムやメディアを通じて市民の皆様と共有する集大成となる年でもありました。

本誌の発行にあたっては、活動にご参加いただいた皆様や、関係者の皆様に感謝申し上げますと共に、その活動のプロセスと成果の一端をご覧いただき、今後の活動をご期待いただけると幸いです。

目次

- 02 SIAFラボとは？
- 03 札幌国際芸術祭2017×SIAFラボ
 - 05 ARTSAT × SIAFラボ
 - 07 CAMP SITE PROJECT『裏庭』
 - 11 SIAFラボ編集局 -札幌・北海道を編集する-
 - 13 SIAFラボ編集局 × サカナ通信
 - 15 大黒淳一 × SIAFラボ
 - 16 SIAF2017連携企画
- 17 Bent Icicle Project -Tulala 2017- ツララボ
- 21 SIAFラボイベント年表
- 22 おわりに

SIAFラボとは？

SIAFとは、札幌国際芸術祭 (Sapporo International Art Festival) の略称でサイアフと読みます。3年に1度、札幌を舞台に開催される芸術の祭典で、第2回を2017年8月6日(日)～10月1日(日)の57日間にわたり開催しました。

この札幌国際芸術祭の略称を冠したSIAFラボとは、「未来のための、札幌を拓く」をテーマに、さまざまなプログラムを通じて、芸術文化活動の担い手となる多彩な人々(アーティスト、キュレーター、研究者、コーディネーター、市民活動団体、ボランティアスタッフなど)を繋ぎ、共に考え、学び合う場として機能します。また、札幌市内において主体的、自発的な活動を行う人々の拠り所となり、札幌らしい芸術文化活動が育まれるきっかけをつくります。SIAFラボの実施するプログラムは、子どもからお年寄りまで誰でも参加することができ、自主事業だけではなく、市民主体の活動や既存の芸術文化関係者との連携によってイベント等を実施しています。多くの市民がSIAFをはじめとする芸術文化に関心を持ち、理解を深めるための「出会い」と「発見」に満ちた場となることを目指します。

SIAFラウンジ・SIAFプロジェクトルーム



SIAFラウンジ

札幌市資料館1階にあるSIAFラウンジは、過去のSIAFの記録物や、関連書籍が閲覧できるライブラリーを兼ね備え、芸術祭にまつわる情報の他、芸術文化に関するさまざまな情報を共有、発信するスペースです。そして、SIAFをはじめ芸術文化に関心のある人々が集う交流の場として機能していくことを目指しています。 カフェも併設され、飲食や休憩スペースとしてもご利用いただけます。

SIAFプロジェクトルーム

札幌市資料館の2階にあるSIAFプロジェクトルームは、SIAFラボで行われるワークショップやレクチャーなど、ものづくりや学びの場の他、展示空間としても活用されます。

※プログラム実施時のみ開室しています。

札幌国際芸術祭2017 × SIAFラボ

札幌国際芸術祭2017の開催に向けたSIAFラボのミッションは、独自に展開するプロジェクトを通じて市民の皆様と共に考え、行動することでした。大友良英ゲストディレクターが掲げた「芸術祭ってなんだ?」という問いを言い換えれば、関わった人それぞれの「芸術祭」を見出し、その数だけ答えがある芸術祭を目指すことにあったと考えています。

そうした考え方を踏まえた芸術祭におけるSIAFラボの活動は、過去2年間の取り組みをベースとしながらも、新たなパートナーや協力者とコラボレーションし、札幌国際芸術祭2017の公式のプログラムとして、以下の4つの活動を実施しました。

モエレ沼公園を舞台に様々な経験とスキルを持ったアーティストや技術者が集まり、宇宙という領域、未知の存在との交信を試みたARTSAT × SIAFラボの「宇宙モエレ(Space-Moere)プロジェクト」(P5)。

SIAFラボの活動拠点である資料館においてアーティストのタノタイガ氏を中心に街中の公園にキャンプ場を生み出した「CAMP SITE PROJECT『裏庭』」(P7)。制度や公共のあり方について、様々なプログラムを通して検証し、その成果を共有する体験と思考の場となりました。

2016年度から継続的に活動を展開してきたSIAFラボ編集局がベースとなり、これまでのプロジェクト参加メンバーに新たなメンバーを加えることによって、より実験的で発展的な情報発信を試みた「サカナ通信」(P13)。

環境情報を収集する新たなシステムの開発によって、その後のSIAFラボの表現活動の可能性を示唆する取り組みとなったアーティストの大黒淳一氏とのコラボレーション作品(P15)。

これらのプロジェクトを通じて、新たな出会いやコラボレーションが織りなす化学反応が様々な場面で起きていたことは、芸術祭を大きな社会実験の場として捉え、未来の札幌を拓く取り組みが生まれる可能性を示唆したのではないのでしょうか。

SIAFラボ マネージャー 漆 崇博



札幌国際芸術祭2017×SIAFラボ

ARTSAT × SIAFラボ

SIAF2017では、「衛星はメディアである」をモットーに、宇宙の文化芸術活用を推進するプロジェクトARTSAT(衛星芸術プロジェクト)とクリエイティブコーディングに関する活動を継続的にやっているSIAFラボによって、イサム・ノグチ(1904～1988)の設計によるモエレ沼公園と宇宙を市民テクノロジーを利用してつなぐ「宇宙モエレ(Space-Moere)プロジェクト」の共同チームを結成しました。

ARTSAT:衛星芸術プロジェクトは、2010年、多摩美術大学と東京大学のコラボレーションから活動開始。2014年2月、世界初の芸術衛星《ARTSAT1: INVADER》の打ち上げに成功し、続く同年12月には「はやぶさ2」との相乗りで、地球の引力圏を脱出する深宇宙彫刻《ARTSAT2: DESPATCH》を惑星軌道に投入し、最遠で470万km(月までの距離の約12倍)からの電波の受信に成功しました。本プロジェクトでは、共同制作した成層圏気球をモエレ沼公園から打ち上げ、リアルタイムに通信をしながら、その環境情報を利用して「テレコーディング」という方法で音楽として演奏するイベントの開催、そして気球から取得した環境情報を利用した作品《宇宙から見える彫刻、宇宙から聞こえる即興演奏》、そして未知なる宇宙の知性がモエレ沼公園を発見したら、いったいどんなメッセージを地球に向けて 送信するかを問うた《全知性のための彫刻》の2作品を発表しました。

《宇宙から見える彫刻、宇宙から聞こえる即興演奏》は、札幌市と同じくユネスコの創造都市ネットワークにメディアアーツ都市として加盟している韓国の光州市で開催されたGWANGJU MEDIA ART FESTIVAL 2017に出品。また《全知性のための彫刻》は、第21回文化庁メディア芸術祭アート部門審査委員会推薦作品に選出されました。

- プロジェクトリーダー
久保田 晃弘 (ARTSAT / SIAFラボ)
- 開発
プロジェクトマネージャー:小町谷 圭 (SIAFラボ)、堀口 淳史・中澤 賢人・宇佐美 尚人・橋本 諭 (ARTSAT)、石田 勝也・船戸 大輔・金井 謙一・藍 圭介 (SIAFラボ)
開発アドバイス:岩谷 圭介
協力:気象庁札幌管区気象台、札幌大谷大学、札幌市立大学、多摩美術大学、北海道大学創成研究機構
- 展示
アーティスティックディレクター:平川 紀道 (ARTSAT)
サウンド:矢坂 健司
無線:堀口 淳史
照明:時里 充、大庭 圭二 (Ryu)
映像:田所 淳
デザイン:小酒井 祥悟 (Siun)
テクニカルサポート:金築 浩史
機材協力:株式会社シンタックスジャパン、東芝ライテック株式会社、東リ株式会社、フォスター電気株式会社 フォステクスカンパニー
制作協力:株式会社クワザワ工業、野方電機工業株式会社、株式会社佐々木製作所
- 広報・記録
映像・アーカイブ:石田 勝也 (SIAFラボ)、門間 友佑
ウェブサイトイラストレーション:川成 由 (SIAFラボ)
ロゴ・デザイン:白井 宏昭

札幌国際芸術祭2017出展作品

《Sculpture to be Seen from Space, Improvisation to be Heard from Space. 宇宙から見える彫刻、宇宙から聞こえる即興演奏》(2017)



1982年に着工し、2005年にグランドオープンしたモエレ沼公園は、20世紀を代表する彫刻家のひとりであるイサム・ノグチのデザインによる、「全体をひとつの彫刻作品とする」総合公園です。この地球上につくられた、まさに「大地の彫刻」としてのこのモエレ沼公園を、市民テクノロジーとしての成層圏気球によって宇宙とつなぎ、さらにそこから、未だ見ぬ地球外知性に思いを馳せる「宇宙の彫刻」を実現しようとしたのが、ARTSAT:衛星芸術プロジェクトとSIAFラボのコラボレーションによる《宇宙から見える彫刻、宇宙から聞こえる即興演奏》プロジェクトです。モエレ沼公園から放出される気球には、気球モジュールの位置や状態、周囲の環境情報を記録するデータロガーに加えて、今回のプロジェクトのために開発した、プログラムコードを送るとそれに応じて音を送信する「テレコーディング・モジュール」が搭載されています。

モエレ沼公園の完成に先立つこと58年前の1947年、イサム・ノグチは大地に土を盛ることで、鼻の長さが1マイル(1.6km)にも及ぶ巨大な「顔」を描く《火星から見るための彫刻》の構想を残していました。このプランのように、モエレ沼公園を宇宙から見たとしたら、いったいそれはどのように見え、地球外知性に何を伝え、何を想起させてくれるのでしょうか。芸術作品を体験することは、鑑賞者がそれぞれの知識や経験を総動員することでそこから意味を発見し、遠く彼方へと想像力の翼を羽ばたかせていくことです。札幌市がモエレ処理場の公園化を制定してから41年、イサム・ノグチが公園のマスタープランを完成してから30年。その志とビジョンは、今もなお、光の速度で遥か宇宙へと拡がり続けています。

《Sculpture for All of the Intelligence 全知性のための彫刻》(2017)



未知なる宇宙の知性がモエレ沼公園を発見したら、いったいどんなメッセージを地球に向けて送信するのでしょうか。中央に位置する送信アンテナは、宇宙の共通言語としての数学から導かれる4次元プラトン立体(正24胞体)を、一方の受信アンテナはモエレ沼公園を宇宙に拡張した気球の飛行軌跡をモチーフとしています。会場は、送信メッセージとシンクロした可視光と、巨大な鉱石検波ラジオで電波から音波に変換された受信メッセージや、銀河や太陽からの電波音で満たされています。遥かなる時空、そして人間とは異なる知性を想像しながら、電磁波の彫刻としてのアンテナと対峙することで、芸術の未来の可能性を体感できます。

SIAF2017作品解説テキストより引用

活動スケジュール

2016 9月2日(金)	ARTSAT×SIAFラボ作品制作公開実験
2017 2月16日(木)~19日(日)	札幌国際芸術祭2017アーティスト・プレビュー 平川紀道《datum》 @モエレ沼公園・ガラスのピラミッド雪倉庫
3月11日(土)	北海道大学CoSTEP修了式公開シンポジウム「手のひらから宇宙まで」
5月20日(土)	ARTSAT×SIAFラボ パラシュート落下実験、SIAFラボ2017キックオフミーティング
8月6日(日)~10月1日(日)	SIAF2017「RE/PLAY/SCAPE」@モエレ沼公園
8月22日(火)	ARTSAT×SIAFラボ 気球打ち上げとテレコーディングパフォーマンス
10月19日(木)	ARTSAT×SIAFラボ 気球打ち上げとテレコーディングパフォーマンス再挑戦
12月1日(金)~3日(日)	GWANGJU MEDIA ART FESTIVAL 2017 参加



札幌国際芸術祭2017×SIAFラボ

CAMP SITE PROJECT 『裏庭』

SIAFラボの活動拠点である札幌市資料館の環境に注目し、札幌国際芸術祭2017に向けて企画したアートプロジェクトとして、当施設の「裏庭」で「CAMP SITE(キャンプ場)」実現に挑戦しました。この取り組みでは、公共空間の制度や用例、キャンプに用いられる道具や作法などについて、専門家や研究者によるレクチャーやリサーチを通じて学びながらさまざまなアイデアやアイテムを検証し、キャンプが可能な環境を生み出す実験を行いました。

札幌国際芸術祭2017の参加アーティストのタノタイガさんをお招きし、SIAFラボの企画メンバーや各プログラムの参加者と共にミーティングを重ね、企画提案から制作プロセスを公開するワークインプログレスとして行いました。参加者それぞれが「公共(パブリック)とは何か?」を「個人(パーソナル)・プライベート」の視点から考え、新たな疑問や思考が形成され、実施された多様なプログラムによってさまざまなコミュニケーションが生まれました。

企画: 漆 崇博 (SIAFラボマネージャー)、小町谷 圭、石田 勝也、船戸 大輔 (SIAFラボ企画メンバー)

アーティスト: タノタイガ

コーディネート: 詫間のり子 (SIAFラボスタッフ)



タノタイガ / TANOTAIGA

立体造形、写真、映像、パフォーマンスなど、メディアにとらわれない多様な表現手法によって、記号性と媒体性を誇張した風刺的表現を行う。ときには作者自身を媒体として日常に埋もれた社会や集団の倫理性、ルールや法律といった現代社会の歪なシステムなどを表出させ、作品の中にはユーモアと毒を兼ね備える。一児の父親。

<http://www.taigart.com>

CAMP SITE PROJECT『裏庭』

イベント・プログラム一覧

「裏庭ミーティング」

SIAF ラボ2017キックオフミーティングでゲストの飯田志保子さんより「キャンプ」の概念について言及していただき、そもその「CAMP／キャンプ」とは？から考えるきっかけとなりました。会期中にもミーティングを行うことでキャンプに必要な要素について議論検討を重ね、参加者が考える「CAMP／キャンプ」を共有する機会となりました。

タノタイガ

「開拓風呂」「開拓風呂入浴式」「ラーメンが食べたい」

アーティストのタノタイガさんが「プライベート」な空間としてお風呂を制作しました。日常的に過ごすことで、裏庭に訪れた訪問者が目撃者になりながらも、一緒に入浴することやラーメンを食べることにより、参加者自身も当事者として「パブリック」との境界を問いました。

タノタイガ「鮭を飼いたい!」

- ・ルアー作りワークショップ ・鮭釣りツアー in 白老
- ・鮭と入浴式 ・鮭料理

制作した「開拓風呂」にて「鮭を飼いたい!」と思ったタノタイガさんと、鮭を釣るためのルアーを制作することから始めました。また必要となる要素の検討や食材確保の過程を公開することによって、「パブリック」な行為と「プライベート」の範囲が曖昧になることを目指しました。

「裏泊」で泊まってみる

「パブリック」な札幌市資料館の裏庭にキャンプすることで生まれる「プライベート」に着目しました。実際に参加者が持参したテントやSIAFラボで制作したテントを使用し、宿泊者や訪問者とのコミュニケーションが生まれました。

「キャンプの為にテント制作ワークショップ」

「キャンプ」をするために必要なプライベート空間を生み出すテントをワークショップとして制作しました。素材から制作図面など企画メンバーや参加者とミーティングで試行錯誤を重ね、会期中の「裏泊」でテントとして使用されました。



活動スケジュール

2017

5月20日(土) 15:00-18:00

SIAF ラボ2017 キックオフミーティング

ゲスト: 飯田志保子 (インディペンデント・キュレーター)、猪熊梨恵 (札幌オオドオリ大学 学長)

会場: SIAF プロジェクトルーム

6月17日(土) 15:00-17:00

裏庭ミーティング vol.1 「パブリックとプライベートの間」

ゲスト: タノタイガ (現代美術家)

会場: SIAF プロジェクトルーム

7月15日(土) 15:00-17:00

裏庭ミーティング vol.2 「アウトドアグッズの進化と可能性」

会場: SIAF プロジェクトルーム

8月8日(火)-11日(金・祝) 13:00-17:00

キャンプの為にテント制作ワークショップ

会場: SIAF ラボミーティングルーム (札幌市資料館 ミニギャラリー6)

8月12日(土) 15:00-17:00

裏庭ミーティング vol.3 「「CAMP/キャンプ」の整備について考える」

会場: SIAF ラボミーティングルーム (札幌市資料館 ミニギャラリー6)

8月13日(日) 13:00-14:00

タノタイガ「開拓風呂入浴式」

会場: 札幌市資料館 裏庭

8月20日(日) 12:00-14:00

タノタイガ「ラーメンが食べたい」

会場: 札幌市資料館 裏庭

8月

「裏泊」で泊まってみる (17-19日・24-26日・31日)

会場: 札幌市資料館 裏庭

9月2日(土) 11:00-16:00

タノタイガ 鮭を飼いたい! 「ルアー作りワークショップ」

会場: 札幌市資料館 裏庭

9月14日(木)-15日(金) 19:00-翌10:00

タノタイガ 鮭を飼いたい! 「タノタイガと行く鮭釣りツアー in 白老」

会場: 白老某所

9月15日(金) 12:00-13:00

タノタイガ 鮭を飼いたい! 「鮭と入浴式」

会場: 札幌市資料館 裏庭

9月16日(土) 12:00-14:00

タノタイガ 鮭を飼いたい! 「鮭料理」

会場: 札幌市資料館 裏庭

9月16日(土) 16:00-18:00

裏庭ミーティング vol.4 「これは「CAMP/キャンプ」だったのか?」

会場: 札幌市資料館 裏庭

9月26日(火)-10月1日(日) 10:00-18:00

『裏庭』アーカイブ展示

会場: SIAF プロジェクトルーム

9月30日(土) 12:00-20:00

裏庭フィナーレ「開拓風呂入浴式・晩餐会」

会場: 札幌市資料館 裏庭

9月

「裏泊」で泊まってみる (1-2日・7-9日・14-16日)

10月1日(日) 12:00-13:00

裏庭フィナーレ「開拓風呂入浴式」

会場: 札幌市資料館 裏庭

2018

3月24日(土) 15:00-18:00

SIAF ラボ 年度末報告会

ゲスト: 久保田 晃弘 (アーティスト/研究者、多摩美術大学教授)

会場: SIAF ラウンジ



SIAF ラボ編集局 ー札幌・北海道を編集するー

SIAF ラボ編集局では、札幌・北海道のアートと暮らしにまつわる「人・もの・こと」を題材として取り上げました。主に市内、道内で展開されている特徴ある芸術文化活動の情報を中心に、札幌ならではの市民活動の情報を編集・発信し、未来に活用されるアーカイブを作成すると同時に、そのプロセスが関係者との連携を強化するきっかけとなり、SIAF2017や札幌で行われる芸術文化活動との協働体制を構築していくことを目指しました。

SIAF ラボ編集局は、2014年に開催された1回目の札幌国際芸術祭において、札幌市資料館を拠点として実施していた「SIAF 編集局」という活動を発端とし、2015年にSIAF ラボのプログラムとして実施した札幌を再考するプログラム「SAPPORO STUDY^(※1)」の流れを汲み、通年のプロジェクトとして2016年に発足しました。

SIAF ラボ編集局の1年目の活動では、「札幌の色」をテーマに調査員それぞれが興味を持った色から関連する資料を探し、取材を行い、それらを「さっぽろ垂氷まつり」(P19)の機会などに合わせて、独自の発信媒体で発表しました。2年目にあたる2017年では、2回目の札幌国際芸術祭の開催に合わせ、「芸術祭を通して見る札幌」をテーマとし、上半期は芸術祭開催中の情報を収集・発信する「サカナ通信」(P13)と協働し、新たな情報発信媒体の提案と実践、下半期は、第1回と第2回の芸術祭を終えて札幌がどうなったのか、ゲストを招いてのレクチャーを交えながらそれを可視化・活用するための仕組みについて検討を重ねました。

※1) SAPPORO STUDY …「札幌らしさ」をキーワードに市電や雪、都市の成り立ちといったテーマを設け、各分野の専門家を招いて行われたレクチャープログラム。年度内全4回開催。



2017年度活動一覧

企画：漆 崇博 (SIAF ラボマネージャー)

コーディネート：杉本 直貴、木所 奈緒 (SIAF ラボ スタッフ)

2017

5月20日(土) 15:00-18:00

SIAF ラボ2017 キックオフミーティング

ゲスト：飯田志保子 (インディペンデント・キュレーター)、猪熊梨恵 (札幌オドオリ大学 学長)

会場：SIAF プロジェクトルーム

6月24日(土) 15:00-17:00

SIAF ラボ編集局 第1回 編集会議「SIAF2017を編集する」

会場：SIAF プロジェクトルーム

7月22日(土) 15:00-17:00

SIAF ラボ編集局 第2回 編集会議「SIAF2017を編集する」

会場：SIAF プロジェクトルーム

8月31日(木) 18:00-20:00

SIAF ラボ編集局 第3回 編集会議「SIAF2017を編集する」

会場：サカナ通信編集室(札幌市資料館 ミニギャラリー3)

9月28日(木) 18:00-20:00

SIAF ラボ編集局 第4回 編集会議「SIAF2017を編集する」

会場：サカナ通信編集室(札幌市資料館 ミニギャラリー3)

10月14日(土) 15:00-17:00

SIAF ラボ プロジェクトミーティング

会場：SIAF プロジェクトルーム

10月28日(土) 15:00-17:00

SIAF ラボ編集局 第5回 編集会議「SIAFを編集する」

ゲスト：小田井真美(さっぽろ天神山アートスタジオ AIR ディレクター)

会場：SIAF ラウンジ

SIAF2014のチーフプロジェクトマネージャーであり、SIAF2017では「アートトリサーチセンター」プロジェクトを行った小田井真美さんをお招きし、2014当時の資料を用いながら、2017と比較して見える視点などを伺いました。

11月25日(土) 15:00-17:00

SIAF ラボ編集局 第6回 編集会議「アーカイブについて考える」

ゲスト：須之内元洋(札幌市立大学デザイン学部 教員)

会場：SIAF プロジェクトルーム

デジタルアーカイブについて研究している須之内元洋さんをお招きし、アーカイブの重要性や構造を過去に手がけた実例を紹介しながらレクチャー形式でお話を伺いました。現時点で考えているアイデアについて、アーカイブしていくときに気をつけることなどアドバイスをいただきました。

12月23日(土・祝) 15:00-17:00

SIAF ラボ編集局 第7回 編集会議「“伝える”を考える」

会場：SIAF プロジェクトルーム

2018

1月27日(土) 15:00-17:00

SIAF ラボ編集局 第8回 編集会議「テーマを決めよう」

ゲスト：須之内元洋(札幌市立大学デザイン学部 教員)

会場：SIAF プロジェクトルーム

2月24日(土) 15:00-17:00

SIAF ラボ編集局 第9回 編集会議「アーカイブをはじめる」

会場：SIAF プロジェクトルーム

3月24日(土) 15:00-18:00

SIAF ラボ 年度末報告会

ゲスト：久保田晃弘(アーティスト/研究者、多摩美術大学教授)

会場：SIAF ラウンジ



第5回 編集会議「SIAFを編集する」



第6回 編集会議「アーカイブについて考える」



札幌国際芸術祭2017×SIAFラボ

SIAF ラボ編集局×サカナ通信

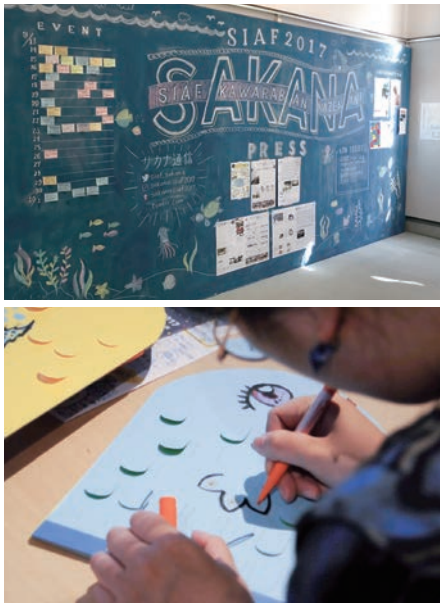
サカナ通信編集長:猪熊 梨恵 (札幌オドオリ大学 学長)
サカナ通信副編集長:松崎 修 (菓子行商 gaburi)
コーディネート:杉本 直貴 (SIAFラボ スタッフ)



サカナ通信は、札幌国際芸術祭に関わる市民の一人ひとりが記者となり、芸術祭にまつわる情報を発信していくプロジェクトです。札幌国際芸術祭2014で定期的に発行していた瓦版「サカナ通信(さいあふ、かわらばん、なぜなに通信の略)」の名称をプロジェクト名として掲げ、札幌市資料館内に設けた編集室を拠点に会期中市内各所で開催されるイベントやプログラムをソーシャルメディアで発信したり、参加者のインタビュー、瓦版の発行などを行いました。

SIAF ラボ編集局×サカナ通信

サカナ通信の編集長である猪熊梨恵さん、副編集長の松崎修さんとSIAFラボ編集局が、2017年5月に開催されたSIAFラボのキックオフミーティングで発案されたアイデアを元に、2回目の札幌国際芸術祭の情報を発信していくメディアとしてサカナ型回覧板「回遊魚」を開発・実践しました。また、来場者一人ひとりの思いや作品に対する感想を集め、来場者に還元する取り組みとして札幌市資料館の入口に情報掲示板を設置するなど、誰もが情報発信者となりえる状況が生まれるような取り組みを行いました。



サカナ通信 vol.1～vol.2

札幌国際芸術祭会期中に、各会場の作品紹介やサカナ通信編集室を訪れた方へのインタビューなどを掲載したフリーペーパーを2回発行しました。



サカナ型回覧板「回遊魚」

情報発信ツールのひとつとして、「回覧板」をメディアとして用いました。特定の地域内で回覧されるものではなく、「札幌国際芸術祭」を知らない人を見つけて手渡していくという社会実験を試みました。会期前に第1弾、会期中に第2弾をそれぞれ20匹ずつ放流し、4匹が回遊を経てサカナ通信編集室に帰ってきました。



回覧板、瓦版発行スケジュール

7月22日(土)	回覧板 回遊魚01
9月1日(金)	瓦版 サカナ通信 vol.1
9月12日(火)	回覧板 回遊魚02
9月23日(土・祝)	瓦版 サカナ通信 vol.2

関連プログラム

500m美術館がみた札幌国際芸術祭2017
2017年11月3日(金・祝)～2018年1月16日(火)
会場:札幌大通地下ギャラリー500m美術館

第10回 ACFフォーラム「札幌国際芸術祭を考える～2017から2020に向けて～」
2018年2月3日(土) 14:00～17:00
出演:猪熊梨恵(札幌国際芸術祭2017「サカナ通信」編集長)
会場:かでる2・7 520研修室



札幌国際芸術祭2017×SIAFラボ

大黒淳一×SIAFラボ

札幌国際芸術祭2017の出展アーティストである大黒淳一さんと協力して、モエレ沼公園敷地内にあるモエレビーチに、環境センサーで取得したデータを用いて水面に波紋を表出させる作品を展開しました。SIAFラボからは、石田勝也と船戸大輔が参加し、環境情報を収集するセンサーを制作、公園敷地内に設置。気温・気圧・湿度・照度・風速の情報を測定し、それぞれインターネット上にアーカイブするシステムを構築しました。



大黒 淳一 / OGURO JUNICHI

1974年札幌市生まれ。サウンドメディアアーティスト。実験音響とアンビエントのレーベル“43d”主宰。2006年、音楽の制作活動のために渡独。ヨーロッパ各地で商業音楽から音響空間設計まで幅広い作曲活動を行うようになる。その後北京オリンピックや上海万博のパビリオンの音楽を担当。サウンドアーキテクトとして音響建築プロジェクトに携わり、今冬にはゲストアーティストとしてドイツのZKMでプロジェクトを実施するなど活躍の幅を広げている。近年は、現代美術のフィールドで、新たな「音」の可能性を追求する作品を発表。本展では、SIAFラボから石田勝也、船戸大輔が参加し、システムの設計、ソフトウェアの開発など作品制作のサポートを行った。

<http://junichioguro.com>



SIAF2017連携企画

SIAFラウンジやSIAFプロジェクトルームを活用し、SIAF2017公式プログラムと連携した下記プログラムを開催しました。

市電プロジェクト 指輪ホテル

3月26日(日)、5月27日(土)

「指輪ホテルと市電にゆられて演劇をつくろう」参加者募集説明会

ボランティアプロジェクト

6月4日(日)・18日(日)・25日(日)、7月9日(日)・23日(日)・30日(日)

「何かやり隊ミーティング」

アジアン・ミーティング・フェスティバル2017 サウンド&ノイズ・ワークショップ

7月1日(土)・2日(日) | ワークショップ

ワークショップ「コンタクト・マイクとアンプを使って演奏しよう」

7月2日(日) | ワークショップ・コンサート

「SIAF ノイズ・アンサンブル」

7月7日(金) | レクチャー

「ターンテーブル・ミュージックってなんだ?」

7月8日(土) | ワークショップ

「手作りレコードでノイズ・ターンテーブル楽器を作ろう」

7月9日(日) | ワークショップ

「身近な電子楽器を使って電磁ノイズ楽器を作ろう」

さっぽろコレクティブ・オーケストラ

8月24日(木)

トークセッション「コレクティブ・オーケストラは芸術祭の縮図である」

大風呂敷プロジェクト

9月16日(土)～18日(月)

「大風呂敷プロジェクト×中山ミシン マネキン人形 千鳥ふみ子」

CAMP SITE PROJECT『裏庭』

9月26日(火)～10月1日(日)

『裏庭』アーカイブ展示



指輪ホテル



サウンド&ノイズ・ワークショップ



さっぽろコレクティブ・オーケストラ



CAMP SITE PROJECT『裏庭』



Bent Icicle Project

—Tulala 2017—

ツララボ



2015年度にSIAFラボで始動した『Bent Icicle Project – Tulala(略称:ツララボ)』とは、アーティストや研究者がプロジェクトの中心メンバーとなって、「つらら」を題材・媒介としたアイデアを持ち寄り、ワークショップやイベントを通して雪国ならではの暮らしの可能性を検証・再考するプロジェクトです。同時に、参加者がメディアアートや現代アートについて学びながら、アートプロジェクトの運営に関わることで、そこから新たな芸術文化活動の担い手や、札幌独自の活動の創出を目指しました。

3年目の活動を迎えた2017年度のツララボは、過去2年間の取り組みをさらに発展させた成果発表の機会として「さっぽろ垂氷まつり2018」(p19)を開催しました。企画プロジェクトメンバーと有志で構成されたツララボメンバーが、デザインやプログラミングなど、それぞれのプログラムや作品制作に向けてミーティングを重ねました。

活動
ミーティング：月一回
勉強会・イベント等：不定期開催
企画プロジェクトメンバー：小町谷 圭(メディアアーティスト、札幌大谷大学講師)、石田 勝也(VJ、札幌市立大学講師)、船戸 大輔(エンジニア)、漆 崇博(SIAFラボマネージャー)
コーディネーター：富田 哲司(コーディネーター、現代美術家)、詫間 のり子、田中あずさ(SIAFラボスタッフ)

活動スケジュール

2017
5月20日(土) 15:00-18:00 SIAFラボ2017 キックオフミーティング ゲスト：飯田志保子(インディペンデント・キュレーター)、猪熊梨恵(札幌オオドオリ大学 学長) 会場：SIAFプロジェクトルーム
10月14日(土) 15:00-17:00 SIAFラボプロジェクトミーティング 会場：SIAFプロジェクトルーム
11月14日(火) 18:00-20:00 SIAFラボ 第1回 ツララボミーティング 会場：SIAFプロジェクトルーム
12月20日(水) 18:00-20:00 SIAFラボ 第2回 ツララボミーティング 会場：SIAFプロジェクトルーム

2018
1月4日(木)~2月2日(金) 15:00-17:00 「さっぽろ垂氷まつり2018」準備期間
1月16日(火) 18:00-20:00 SIAFラボ 第3回 ツララボミーティング 会場：SIAFプロジェクトルーム
2月3日(土)~12日(月・祝) 10:00-18:00 「さっぽろ垂氷まつり2018」 会場：札幌市資料館 館内各所及び前庭・裏庭特設会場
3月24日(土) 15:00-18:00 SIAFラボ年度末報告会 ゲスト：久保田晃弘(アーティスト/研究者、多摩美術大学教授) 会場：SIAFラウンジ

さっぽろ垂氷まつり2018

2018年2月3日(土)～12日(月・祝) 10:00～18:00 (2月5日のみ休)

会場:札幌市資料館 1階SIAFラウンジ、2階SIAFプロジェクトルーム、前庭 特設会場、裏庭 特設会場

料金:無料 (「つららアクセサリ」販売・制作ワークショップのみ有料)

垂氷(たるひ)とは「つらら」の古語名で氷柱とも書きます。「さっぽろ垂氷まつり」は、北国の暮らしにとって身近な存在である「つらら」をメディアと捉え、アート、サイエンス、暮らし、文化などさまざまな側面から札幌の冬を再発見するイベントです。ツララボの活動の成果発表の場として2015年度から毎年開催してきました。継続的に取り組んでいるプログラムに加え、3回目となる今回は「都市・水・水脈」に焦点をあてた新たな表現も展開しました。



こんなの見たことない!? 不思議な形をしたつららの展示

回転式巨大つらら造形装置

会場:前庭 特設会場

高速で回転するパイプに上から水を供給することにより、遠心力によって放射状に広がりながら360度に伸びるつららを造形する装置です。一定の温度条件で自動的に回転稼働させ、会期中昼夜問わずつららを成長させることに成功しました。

ツララボ活動報告展示

会場:SIAFラウンジ

2015年度からスタートした「つらら」をテーマにさまざまな活動を行うSIAFラボのプロジェクトであるツララボ。3年間の活動の中でどのような変遷を辿ってきたかをキーワードとビジュアルで紹介する展示をしました。



つららアクセサリー販売

会場:SIAFラウンジ

札幌市内で採取したさまざまな形のつららを3Dスキャンでデータ化し、3Dプリンタで再現。つららアクセサリーとしてイヤリングやキーホルダーを販売しました。

つららアクセサリー制作ワークショップ(有料)

2月4日(日)・11日(日・祝) 各日11:30～16:00

会場:SIAFプロジェクトルーム

つららアクセサリーを好きなパーツやビーズで自由に組み合わせて制作するワークショップを2日間行いました。



人工氷柱製造装置

会場:SIAFプロジェクトルーム

冷凍庫という温度管理された環境で人工的に水量や支点を制御することで、自然界には存在しない形状のつららを制作しました。つららのできる環境や条件を想定しながら実験・改良を繰り返し、これまでに製造してきた人工つららの記録もスライドで同時に展示しました。



垂氷小屋

会場:裏庭 特設会場、SIAFラウンジ

2016年度のツララボの活動の中で、建築家や建築環境の研究者と協力し、つららが生成されやすい構造を目指して制作された小屋です。昨年度は新たに環境情報を取得するためのセンサーをとりつけた他、日々成長するつららの様子を撮影し続け、インターバル動画として発表しました。



SIAF ラボイベント年表

2017年

4月22日(土) 15:00 SIAF ラウンジ 連携イベント アートカフェ in 資料館 vol.24 「現代アート…なぜキラワれる!?」	9月26日(火)–10月1日(日) 10:00–18:00 SIAF プロジェクトルーム CAMP SITE PROJECT『裏庭』アーカイブ展示
5月14日(日) 14:00 SIAF ラウンジ 連携イベント アートカフェ in 資料館 vol.25 「プレスリリースって見た?」	9月28日(木) 18:00 サカナ通信編集室 SIAF ラボ編集局 第4回 編集会議「SIAF2017を編集する」
5月20日(土) 15:00 SIAF プロジェクトルーム SIAF ラボ2017キックオフミーティング ゲスト:飯田 志保子(インディペンデント・キュレーター)、猪熊 梨恵(札幌オオドオリ大学学長)	9月30日(土) 12:00 札幌市資料館 裏庭 CAMP SITE PROJECT『裏庭』 裏庭フィナーレ「開拓風呂入浴式・晩餐会」
6月17日(土) 15:00 SIAF プロジェクトルーム CAMP SITE PROJECT『裏庭』 裏庭ミーティング vol.1「パブリックとプライベートの間」 ゲスト:タノタイガ(現代美術家)	10月1日(日) 12:00 札幌市資料館 裏庭 CAMP SITE PROJECT『裏庭』 裏庭フィナーレ タノタイガ「開拓風呂入浴式」
6月24日(土) 15:00 SIAF プロジェクトルーム SIAF ラボ編集局 第1回 編集会議「SIAF2017を編集する」	10月1日(日) 18:30 札幌市資料館 研修室 札幌国際芸術祭2017振り返りトーク ゲスト:羊屋白玉(指輪ホテル)、柴田 尚(NPO法人S-AIR代表理事)
7月15日(土) 15:00 SIAF プロジェクトルーム CAMP SITE PROJECT『裏庭』 裏庭ミーティング vol.2「アウトドアグッズの進化と可能性」	10月7日(土) 13:00–17:00 インタークロス・クリエイティブ・センター クロスガーデン ジュニア・プログラミング・ワールド2017 ライブコーディングで即興演奏&VJ体験!
7月22日(土) 15:00 SIAF プロジェクトルーム SIAF ラボ編集局 第2回 編集会議「SIAF2017を編集する」	10月14日(土) 15:00 SIAF プロジェクトルーム SIAF ラボ プロジェクトミーティング
8月3日(木) 18:00 札幌市資料館 ミニギャラリー6 SIAF2017 札幌市資料館ボランティア 事前説明会	10月17日(火)–11月5日(日) 10:00–18:00 SIAF プロジェクトルーム kagajominowa「Q&Q」展示 出展者:kagajominowa(加賀城 匡貴、養輪 俊介)
8月8日(火)–11日(金) 13:00 SIAF ラボミーティングルーム CAMP SITE PROJECT『裏庭』 キャンプの為に TENT 制作ワークショップ	10月28日(土) 15:00 SIAF ラウンジ SIAF ラボ編集局 第5回 編集会議「SIAF2017を編集する」 ゲスト:小田井 真美(さっぽろ天神山アートスタジオ AIRディレクター)
8月12日(土) 15:00 SIAF ラボミーティングルーム CAMP SITE PROJECT『裏庭』 裏庭ミーティング vol.3「CAMP/キャンプ」の整備について考えてみる	10月29日(日) 13:00 SIAF プロジェクトルーム kagajominowa「Q&Q」展示 アーティスト・ワークショップ 講師:kagajominowa(加賀城 匡貴、養輪 俊介)
8月13日(日) 13:00 札幌市資料館 裏庭 CAMP SITE PROJECT『裏庭』 タノタイガ「開拓風呂入浴式」	11月3日(金・祝) 13:00 SIAF プロジェクトルーム kagajominowa「Q&Q」展示 アーティスト・トーク アーティスト:kagajominowa(加賀城 匡貴、養輪 俊介) ゲスト:石川 伸一(メディアリサーチ) 司会:森脇 俊文
8月20日(日) 12:00 札幌市資料館 裏庭 CAMP SITE PROJECT『裏庭』 タノタイガ「ラーメンが食べたい」	11月3日(金・祝)–1月16日(火) 7:30–22:00 札幌大通地下ギャラリー–500m美術館 「500m美術館がみた、札幌国際芸術祭2017」(サカナ通信)
8月 札幌市資料館 裏庭 CAMP SITE PROJECT『裏庭』 「裏泊」で泊まっている (8/17–19、24–26、31)	11月11日(土) 15:00 SIAF ラウンジ 連携イベント アートカフェ in 資料館 vol.26「札幌市民交流プラザで何かやってみる?」
8月31(木) 18:00 サカナ通信編集室 SIAF ラボ編集局 第3回 編集会議「SIAF2017を編集する」	11月14日(火) 18:00 SIAF プロジェクトルーム ツララボ Bent Icicle Project–Tulala 第1回ツララボミーティング
9月2日(土) 11:00 札幌市資料館 裏庭 CAMP SITE PROJECT『裏庭』 タノタイガ 鮭を飼いたい!「ルアー作りワークショップ」	11月25日(土) 15:00 SIAF プロジェクトルーム SIAF ラボ編集局 第6回 編集会議「アーカイブについて考える」 ゲスト:須之内 元洋(札幌市立大学デザイン学部 教員)
9月14日(木)–15日(金) 12:00–翌10:00 白老某所 CAMP SITE PROJECT『裏庭』 タノタイガ 鮭を飼いたい!「タノタイガと行く鮭釣りツアー in 白老」	12月1日(金)–3日(日) 「光州メディアアーツ・フェスティバル2017」 ARTSAT×SIAF ラボ
9月15日(金) 12:00 札幌市資料館 裏庭 CAMP SITE PROJECT『裏庭』 タノタイガ 鮭を飼いたい!「鮭と入浴式」	12月2日(土) 17:00 SIAF プロジェクトルーム 連携イベント アートカフェ in 資料館 vol.27「出品作家が語る、初めての奥能登国際芸術祭」 ゲスト:坂巻 正美、深澤 孝史、松本 佛一
9月16日(土) 12:00 札幌市資料館 裏庭 CAMP SITE PROJECT『裏庭』 タノタイガ 鮭を飼いたい!「鮭料理」	12月20日(水) 18:00 SIAF プロジェクトルーム ツララボ Bent Icicle Project–Tulala 第2回ツララボミーティング
9月16日(土) 16:00 札幌市資料館 裏庭 CAMP SITE PROJECT『裏庭』 裏庭ミーティング vol.4「これは「CAMP/キャンプ」だったのか?」	12月23日(土・祝) 15:00 SIAF プロジェクトルーム SIAF ラボ編集局 第7回 編集会議「“伝える”を考える」

2018年

1月16日(火) 18:00 SIAF プロジェクトルーム ツララボ Bent Icicle Project–Tulala 第3回ツララボミーティング	1月20日(土)–2月24日(土) CAI02 ミヤギフツシ個展「いなくなってしまった人たちのこと/The Dreams That Have Faded」への技術協力(石田、船戸)
1月27日(土) 13:00–16:00 SIAF プロジェクトルーム SIAF ラボ編集局 第8回 編集会議「テーマを決めよう」 ゲスト:須之内 元洋(札幌市立大学デザイン学部 教員)	2月3日(土)–12日(月・祝) 10:00–18:00 札幌市資料館 館内各所及び前庭・裏庭特設会場 さっぽろ垂氷まつり2018
2月24日(土) 15:00 SIAF プロジェクトルーム SIAF ラボ編集局 第9回 編集会議「アーカイブをはじめ」	2月24日(土) 14:00 SIAF ラウンジ 連携イベント アートカフェ in 資料館 vol.26「作品の無料公開って、アリ?〜アートとお金の関係について〜」
3月24日(土) 15:00 SIAF ラウンジ SIAF ラボ年度末報告会 ゲスト:久保田 晃弘(アーティスト/研究者、多摩美術大学教授)	

収穫から新たな出発へ

2017年10月1日に第2回の札幌国際芸術祭(SIAF2017)が終了してから、早半年が過ぎました。あの、怒涛のような真夏の2カ月間を思い起こしつつ、昨年度のSIAF ラボの活動のひとつひとつを振り返ってみれば、まずこの2017年が、何ととってもSIAF ラボにとって最初の収穫の年になったことが改めて実感できます。

思えば2015年、何もかもが初めてだった第1回の芸術祭が終了した後、3年ごとに開催されるハレの場としての芸術祭を繋ぎ支えるケ(日常)の活動の場の必要性を痛感し、そこから半ば必然的に生まれたのが、このSIAF ラボでした。立ち上げ時は、ほぼ白紙の状態ではありませんでしたが、資料館をリノベーションして設けられたラウンジとプロジェクトルームという拠点を得ることで、芸術祭を振り返りながらアートの社会的可能性を探るレクチャーや展示、プログラムコードやツララといった新しいメディアの中に潜む新たな音楽や芸術の探求、札幌市の情報を共有編集することで、これまで隠れていた意味や価値を(再)発見する試みといった、さまざまな活動が行われました。そこで得られた経験や思索は、SIAF ラボだけでなく、参加してくれた市民の方々の中にも深く織り重なっていきました。

そして迎えた2017年、いよいよハレの場としての芸術祭の開幕です。資料館の裏庭にはオルタナティブな体験の場としての「キャンプ」が営まれ、芸術祭本体では、ARTSAT との「宇宙モエレ」プロジェクトをはじめとする、数々の外部チームとのコラボレーションプロジェクトが実施され、さらには(表にはあまり出ませんでした)が)芸術祭のテクニカル・スタッフとしての八面六臂の活躍。2015年に種を蒔くことから始まったSIAF ラボの活動なくして今回の芸術祭という収穫はなかった、といっても決して過言ではありません。

しかしSIAF ラボの本領発揮はこれからです。ようやく3年間のケとハレの最初のターンが終了し、何がまだ足りないのか、どうすればさらに遠くに行けるのか、そのためにはどんな技術が必要なのか、メンバー一人ひとりの中に、たくさんの視点と知見が残され、そして沢山のビジョンと欲望が生まれました。これからまた3年、次の2020年に向けてのスタートはすでに切られています。芸術祭とSIAF ラボはいわば車の両輪でもあります。互いに連動し、補い合いながらペースを合わせて進んでいくことで、その活動は右にも左にも、速くも遅くも、より自由自在で懐の深いものになっていきます。2018年度の活動の3つの柱も決まりました。ぜひこれからも、SIAF ラボに暖かいご支援とご協力のほど、よろしくお願い致します。

SIAF ラボアドバイザー 久保田 晃弘

編集:SIAF ラボ
漆 崇博／石田 勝也／小町谷 圭／
船戸 大輔／富田 哲司／金井 謙一／
詫間の り子／杉本 直貴／
木所 奈緒／田中あずさ

寄稿:久保田 晃弘
(アーティスト/研究者、多摩美術大学教授)

協力:ツララボメンバー
SIAF ラボ編集局メンバー

デザイン:白井 宏昭

撮影:クスマエリカ／小牧寿里／門間友佑

発行:札幌国際芸術祭実行委員会事務局

助成:  平成30年度 文化庁文化芸術創造拠点形成事業

SIAF ラボ
〒060-0042 札幌市中央区大通西13丁目
札幌市資料館1階 SIAF ラウンジ
Tel: 011-252-9360
Fax: 011-252-9361
Mail: siaflab@siaf.jp

札幌国際芸術祭実行委員会 事務局
〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目
札幌市市民文化局国際芸術祭担当部内
Tel: 011-211-2314
Fax: 011-218-5154
Mail: info@siaf.jp

文中の所在地・肩書きは、全て2018年4月現在

発行:2018年4月

